

3 会場までのアクセス

(1) 自家用車

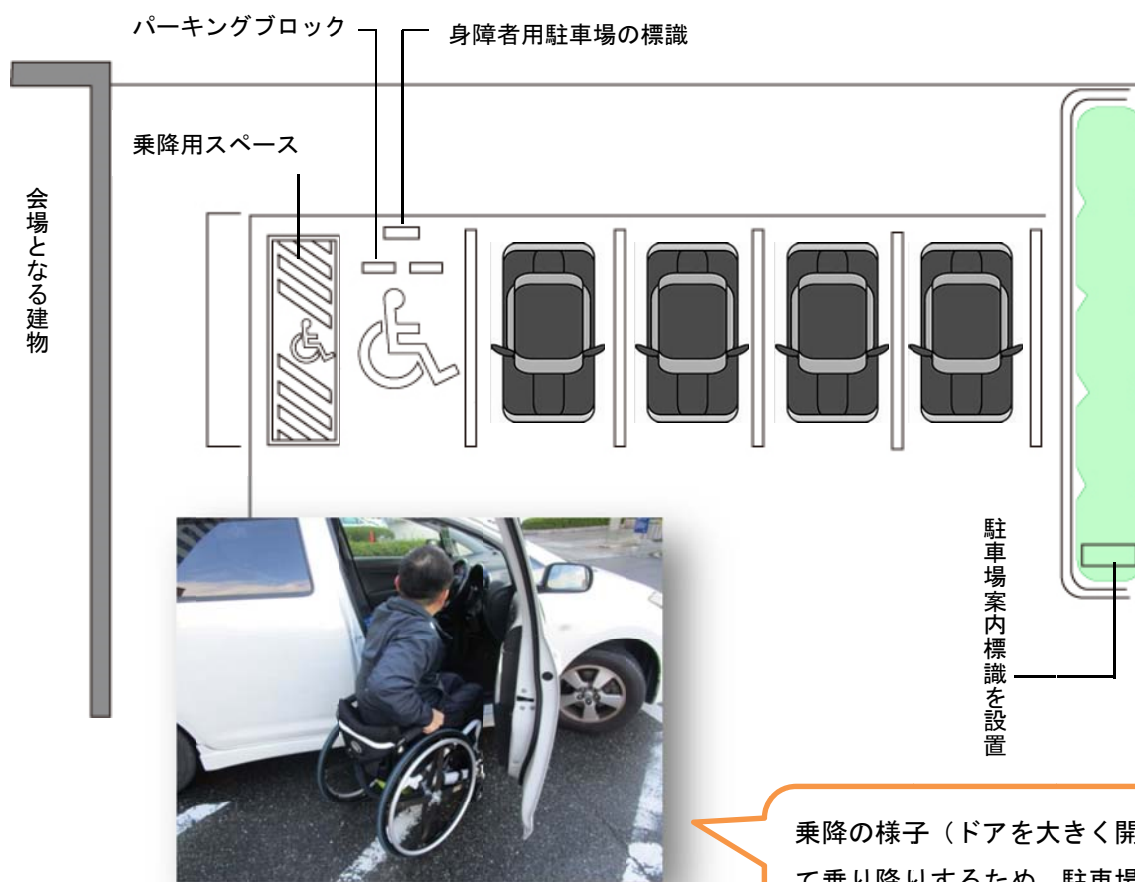
イベント会場周辺の道路に混雑が発生しないよう、駐車場規模を確認し、事前に適切な対策を講じておくことが大切です。

また、車いす使用者は、自家用車を移動手段とすることが多いため、必ず、身障者用駐車場があるか確認します。

対応方法

- 身障者用駐車場がある場合には、次の項目を確認します。
(図3-1参照)
 - ☑ 会場入口に近い場所に設置されているか
 - ☑ 必要(と見込まれる)台数分が確保されているか
 - ☑ 円滑に乗降できるか(幅、傾斜)
 - ☑ 駐車場入口からのわかりやすい案内表示があるか
- 身障者用駐車場がない場合には、会場入口近くに**臨時駐車場の設置**を検討します。
設置する場合は、車いす乗降スペースの確保や会場の入口まで**段差のないルート**の確保が大切です。
段差がある場合は、板による仮設スロープを設けるなどの応急措置や、段差部分に係員を配置するなどの人的支援を検討します。
- 車いす使用者は、雨天時に傘をさすことが困難です。雨天の場合、屋根がない身障者用駐車場では、近くに係員を配置し、乗降時に傘をさしかけるなどの支援を行うと喜ばれます。

図3-1 身障者用駐車場の例



乗降の様子（ドアを大きく開いて乗り降りするため、駐車場の幅が広くとられています）



(2) 公共交通機関

主要駅から会場までのバス、電車等の公共交通機関が運行されている場合は、予想参加者数、集中時間帯などを参考に、対応が可能か確認します。

対応方法

- 既存の公共交通機関の運行数では、予想参加者数や集中時間帯に対応できない場合は、次の方法を検討します。
 - ☑ バス、電車等の便の増発
 - ☑ シャトルバスの運行
- バス路線を利用する場合は、低床バス（ノンステップバス）かどうか確認します。

シャトルバスを運行する場合は、できるだけ低床バスを手配しましょう。低床バスの確保が難しい場合は、車いす使用者や高齢者などが乗降しやすい福祉タクシーの活用を検討します。
- 発着場所には、なるべく係員を配置し、高齢者や障害者などの乗降に配慮します。

(3) 徒歩

主要駅から会場までのルートを、事前に実際のイベント開催の時間帯に歩くなどして、障害者や高齢者、ベビーカーを使用している家族連れなど様々な人の目線で、通行困難な場所や不便な場所がないか確認します。

対応方法

- 確認する内容としては、次の事項が考えられます。
 - ◇ 段差や階段、急勾配の坂や片流れの斜面の有無
 - ◇ 狭い道路、歩道のない道路の有無
 - ◇ 砂利道等の未舗装の歩道の有無
 - ◇ ふたのない側溝や水路の有無
 - ◇ グレーチング（金属製溝蓋）の網目は杖や車いすなどのキャスターが落ち込まない程度の大きさか（目安：溝蓋の幅が1.5 cm以下）
 - ◇ 交通量の多い交差点の有無、音響式信号機の有無
 - ◇ 工事（予定）箇所の有無
 - ◇ 点字ブロックの未整備箇所の有無 等

- 歩行ルートで、危険箇所や通行不便な場所がある場合は、そこに誘導員を配置したり、危険を知らせる注意看板を設置します。
- 主要駅から会場までの地図を準備し、募集チラシなどに掲載します。
- 地図を作成するときは、次の点に配慮しましょう。
 - ☑ 目印となる建物など、できるだけ具体的な情報を記載し、誰にでもわかりやすいよう工夫します。
 - ☑ カラー印刷の場合は、誰にでも見やすい色使いなどに配慮しましょう。(参考資料「色とユニバーサルデザイン」参照)
 - ☑ 徒歩の場合、所要時間を書いてあると便利です。

(4) 案内表示 (サイン)

会場までスムーズに行くことができるわかりやすい案内表示 (サイン) や地図があるか確認します。特に、多数の来場が見込まれる大きなイベントでは、検討が必要です。

対応方法

- 実際に会場を下見し、平面図等を基にサインの配置を検討しておきます。
 - サインが不十分である場合は、施設管理者や道路管理者の了解を得る必要がありますが、臨時のサインを用意する等、サインを充実させることが大切です。(会場内も同様です)
 - サインを設置する場合は、次の点に留意しましょう。
 - ☑ 太く大きな文字とする
 - ☑ 見分けやすい色の組み合わせや、明度差を確保する
(参考資料「色とユニバーサルデザイン」参照)
 - ☑ 絵文字 (ピクトグラム) や多言語を用いる
- ※ ピクトグラムは、公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団が定める標準案内用図記号を参考にしてください。(4-2 ページ参照)
- http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_top.html

- 駐車場入口などサインのみでは混乱が予想される場所には、誘導員を配置するなど人的支援も併せて実施します。
- イベントごとにテーマカラーやマークなどを設定し、サイン等に使用することで、会場までのアクセスがよりわかりやすくなります。

(参考) 次のような場所へのサインの設置を検討しましょう。

(公共交通機関利用者への対応)

- ☑ 主要駅や会場付近の発着場所
- ☑ 会場付近の到着場所から会場入口までのアプローチ

(主要駅から徒歩による参加者への対応)

- ☑ ルート上のわかりにくい分岐点

(自家用車利用者への対応)

- ☑ インターや主要道路からの進入ルート各ポイント
- ☑ 駐車場周辺、駐車場内
- ☑ 駐車場から会場入口までのアプローチ

職員の気づき

(1) 自家用車

- 車いすを使用されている参加者から、身障者用駐車場が会場入口から遠かったこと、会場までの道に凹凸があり通行が困難であったこと、車いすを押すなどの介助があればよかった、という意見があった。

(4) 案内表示 (サイン)

- 同じ会場で複数のイベントがあり、案内の掲示が足りずに苦労した。もっと多く、文字の大きい掲示案内を心がけるべきだった。
- イベント会場付近に案内板や旗等が全くなく、イベントがあっているかどうかわからなかったため、結局行かなかった。初めて行く人にとっては、案内板は必要。



ちょっと
ブレイク



九州国立博物館の元館長・三輪嘉六さんにお話をお聞きしました

- イベントなどでは、関心のない人にも参加してもらうことが大切で、そのことが新しい知恵や今後のイベントの在り方の発見につながっていくと思います。
実際に、私は「来たくない人にも来てもらおう」「やりたくない人にも参加してもらおう」という発想で取り組んできました。
- 主催者側は、あまり大がかりなことをする必要はなく、ユーザーにとって、ちょっとした「仕掛け」を作ってあげるだけで、随分違うと思います。
そのような「仕掛け」は、館としての「優しさ」の表現であり、そういう「優しさ」があらゆる場面で求められているのではないかと考えています。

【九州国立博物館で取り入れた「仕掛け」の事例】

事例1) 車いすを使っている人も見やすいよう、展示台の角（黒塗り部分）を少し削る

事例2) 補助犬を連れてお客様が困らないよう、補助犬用のトイレを整備



↑ 補助犬用トイレの内部



↑ 補助犬用トイレ